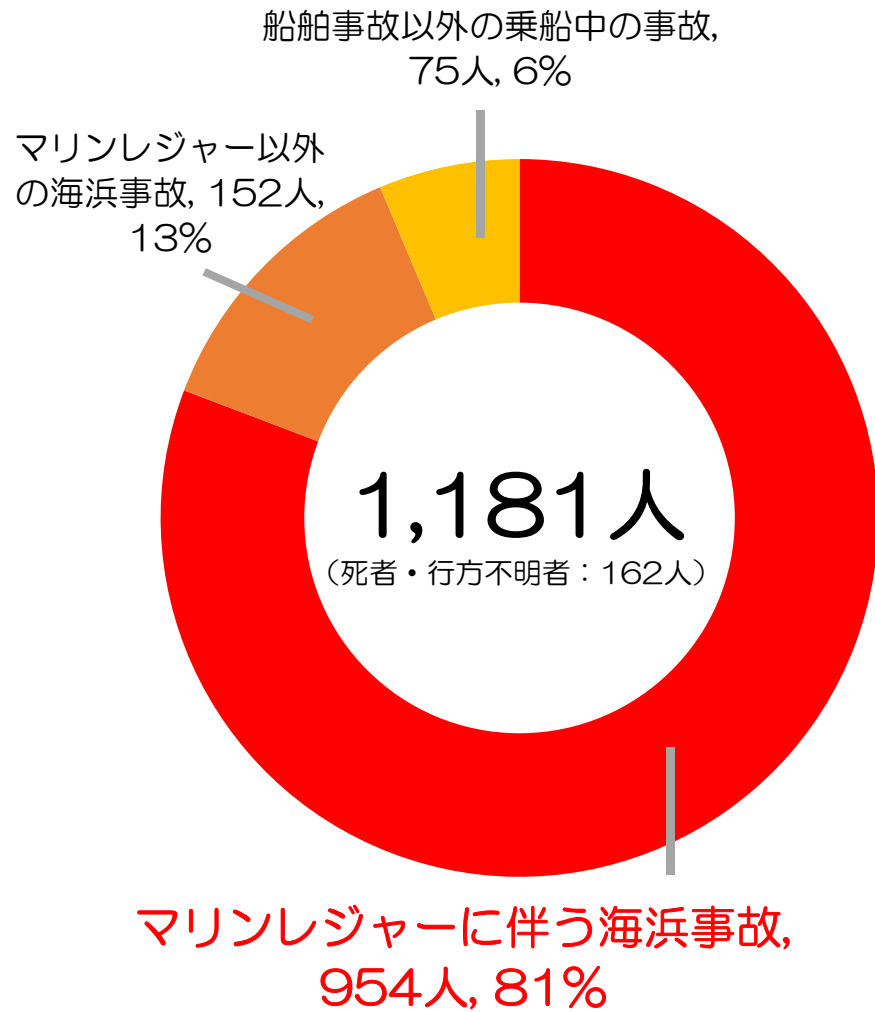


子供の海の事故発生状況

海上保安庁
交通部安全対策課
平成29年10月

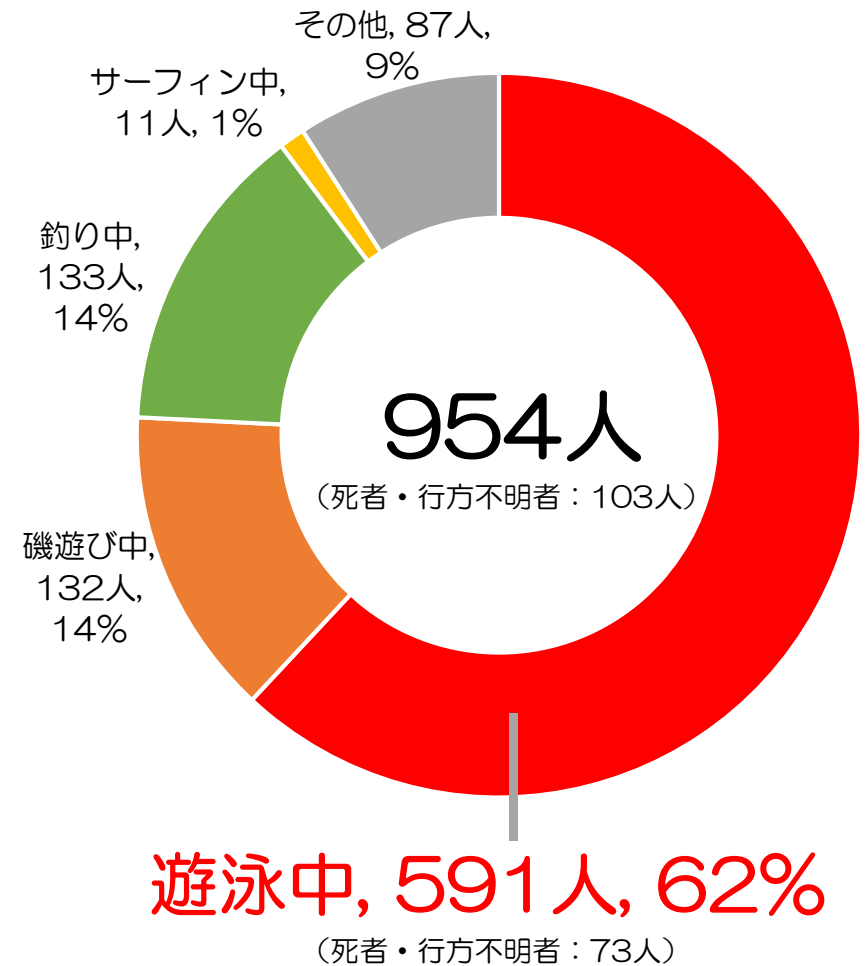
1. 海の事故（船舶事故を除く）発生状況（子供（14歳以下））

事故区分別発生状況（H19-H28累計）



参考：全体 28,335 人（14歳以下 約4%）

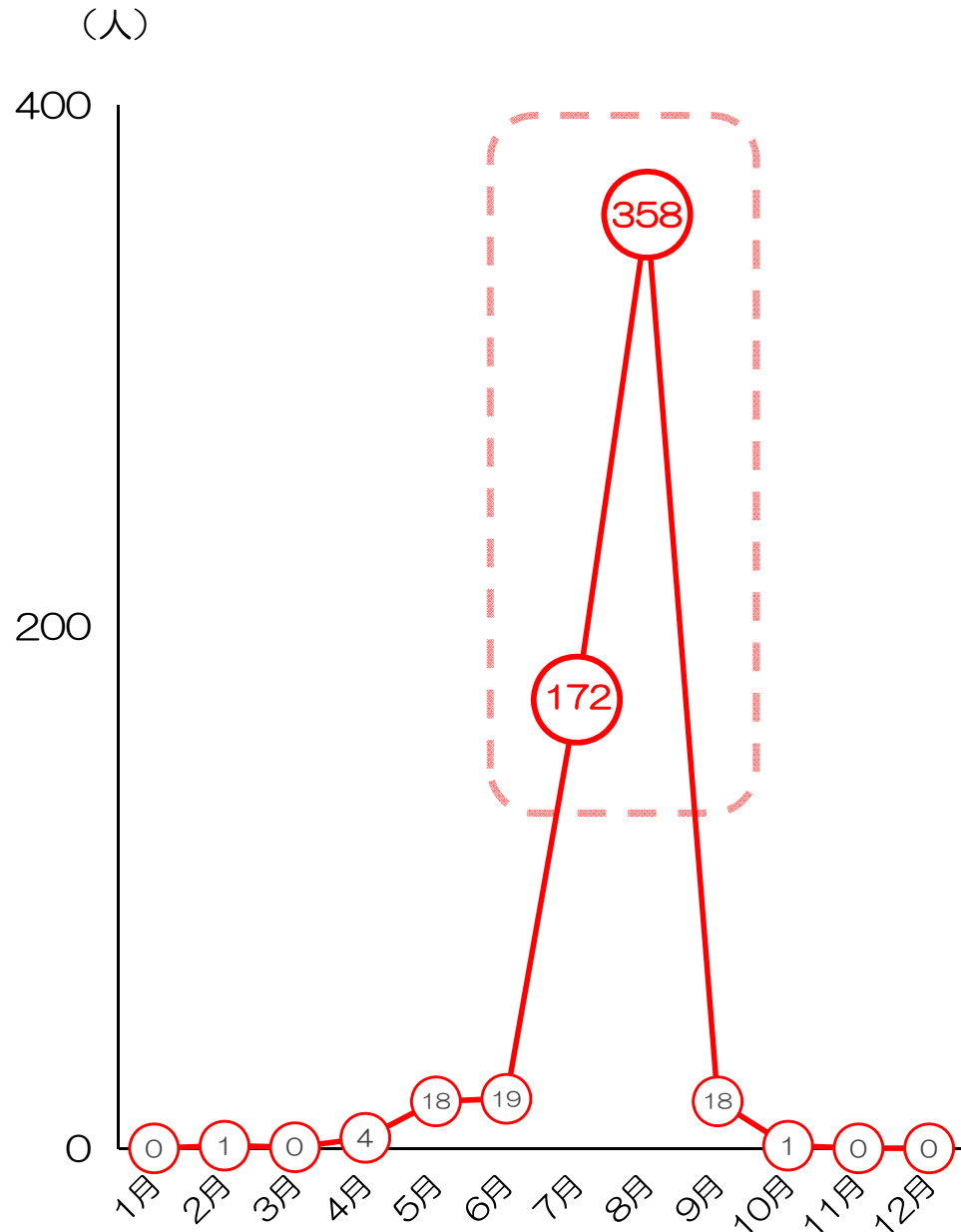
マリネジャーに伴う海浜事故 活動内容別発生状況（H19-H28累計）



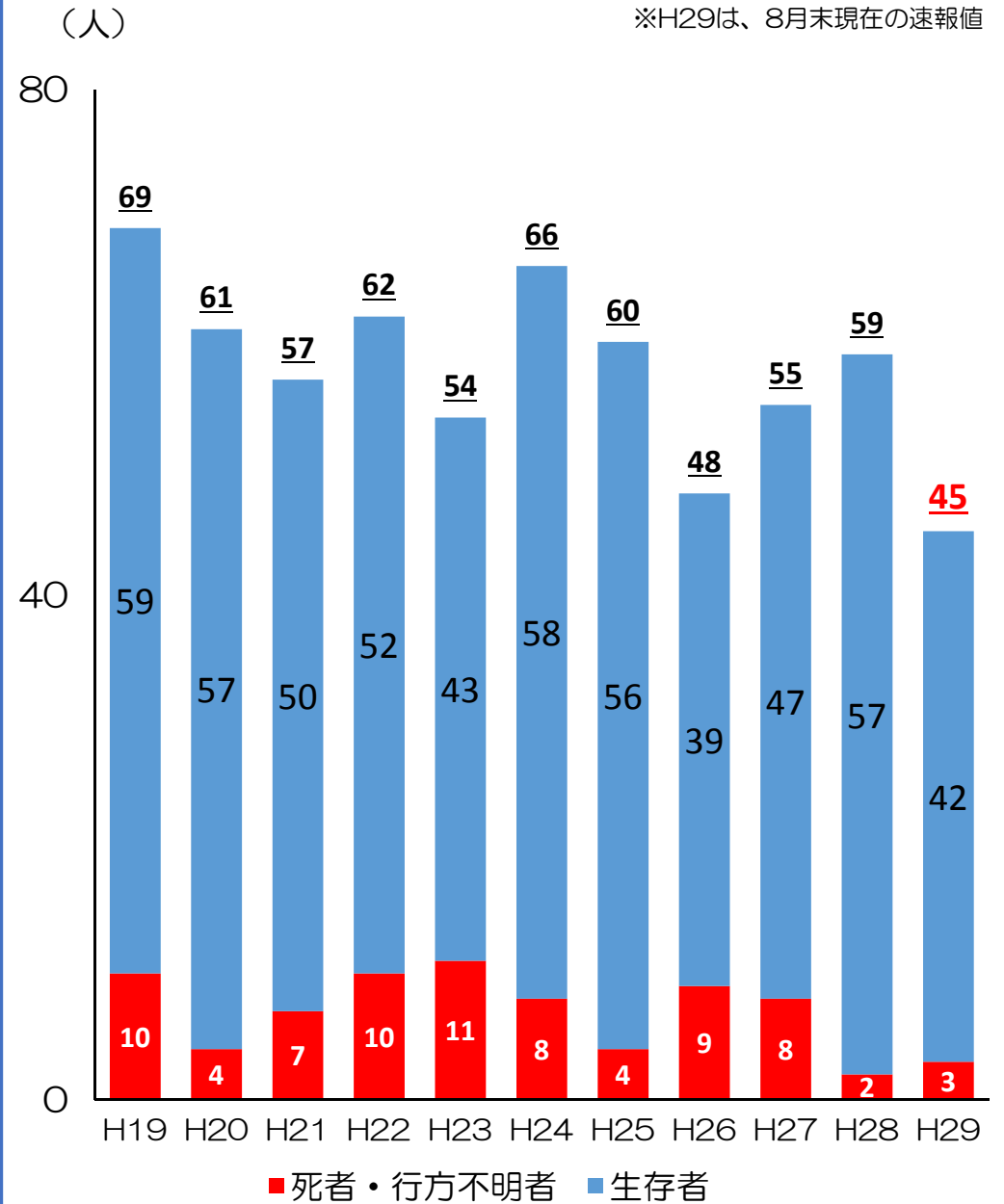
参考：全体 8,572人（14歳以下 約11%）

2. 遊泳中事故の発生状況（14歳以下）

月別発生状況（H19—H28累計）

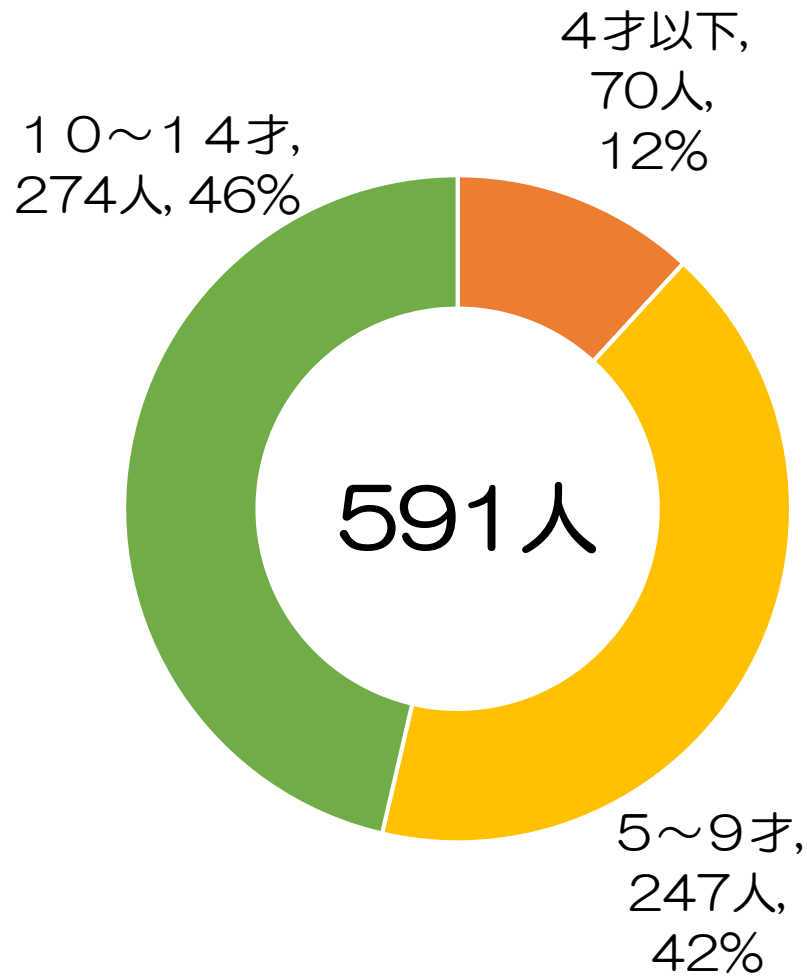


遊泳中事故者数の推移

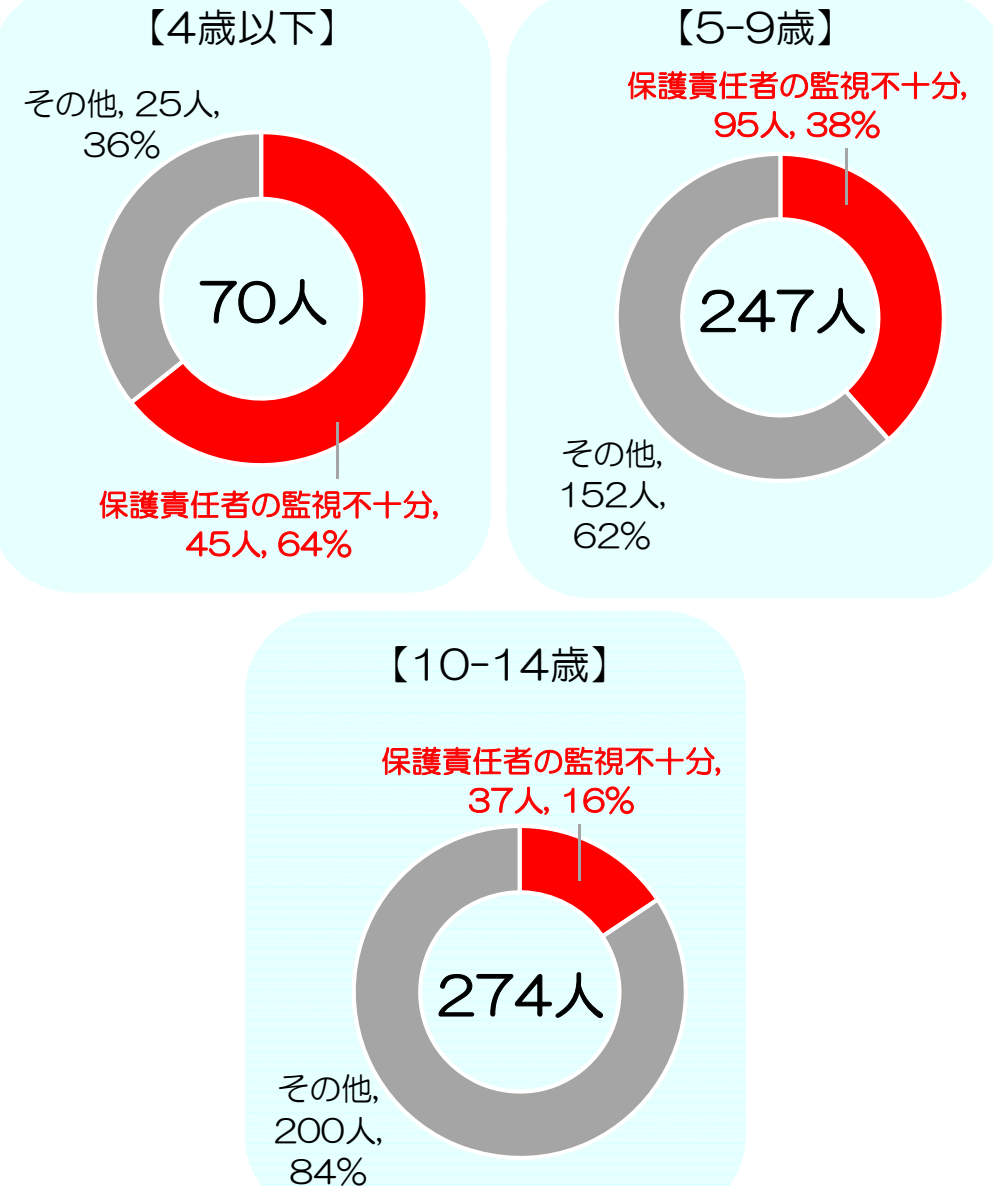


3. 遊泳中事故の年齢別発生状況（H19-H28累計 14歳以下）

年齢別発生状況



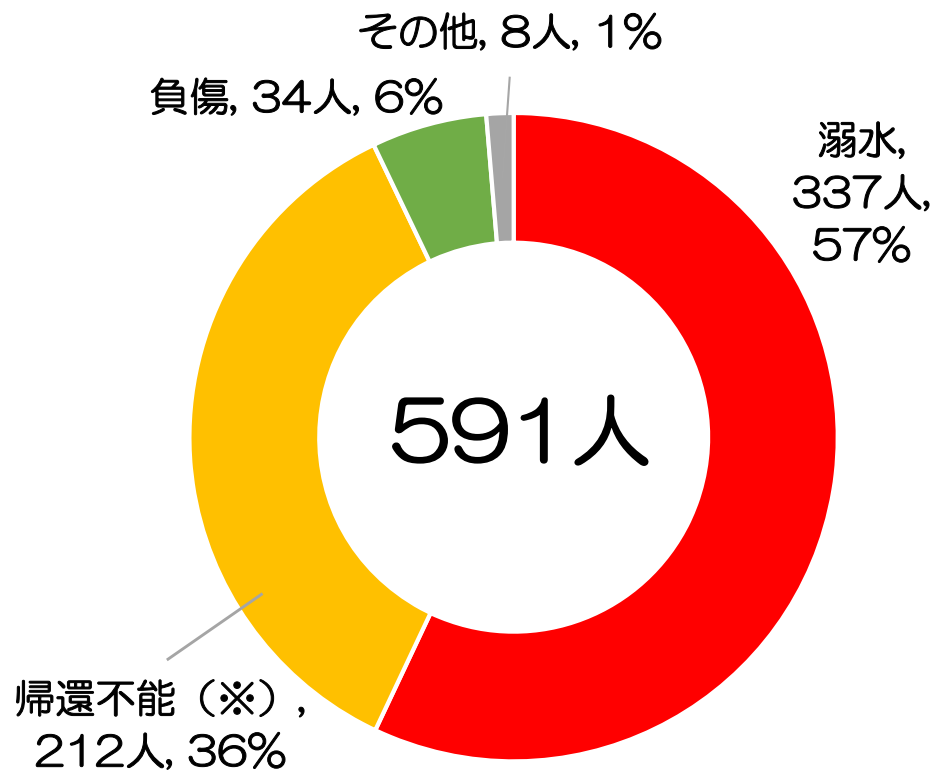
原因別発生状況



※ 「その他」には、保護責任者と同伴していない事故を含む

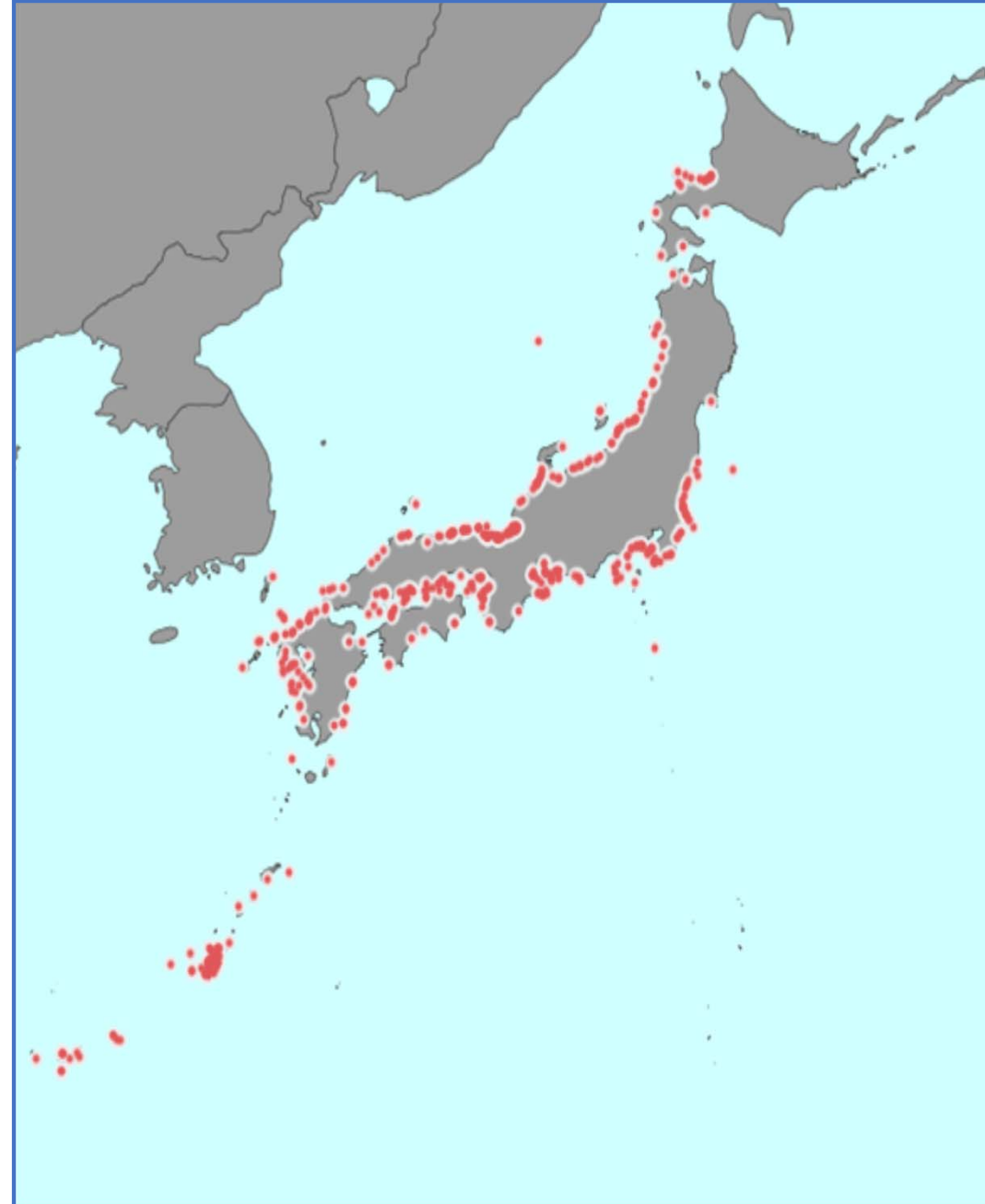
4. 事故内容別 遊泳中事故の発生状況（14歳以下）

事故内容別発生状況（H19-H28累計）



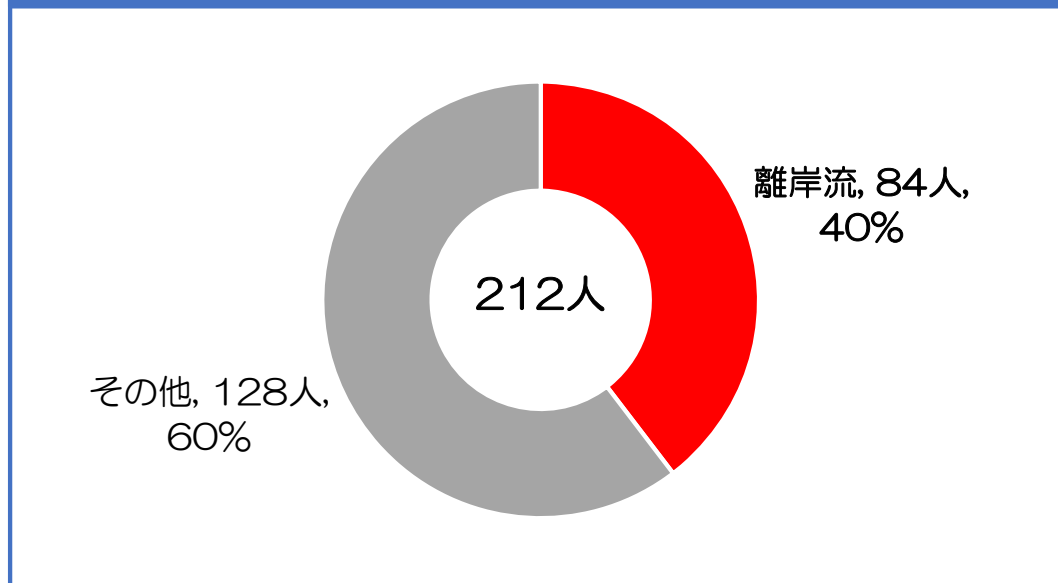
※ 帰還不能：漂流、孤立等により保護が可能な陸岸に戻れない状態となった場合をいう。

遊泳中事故発生位置（H19-H28累計）

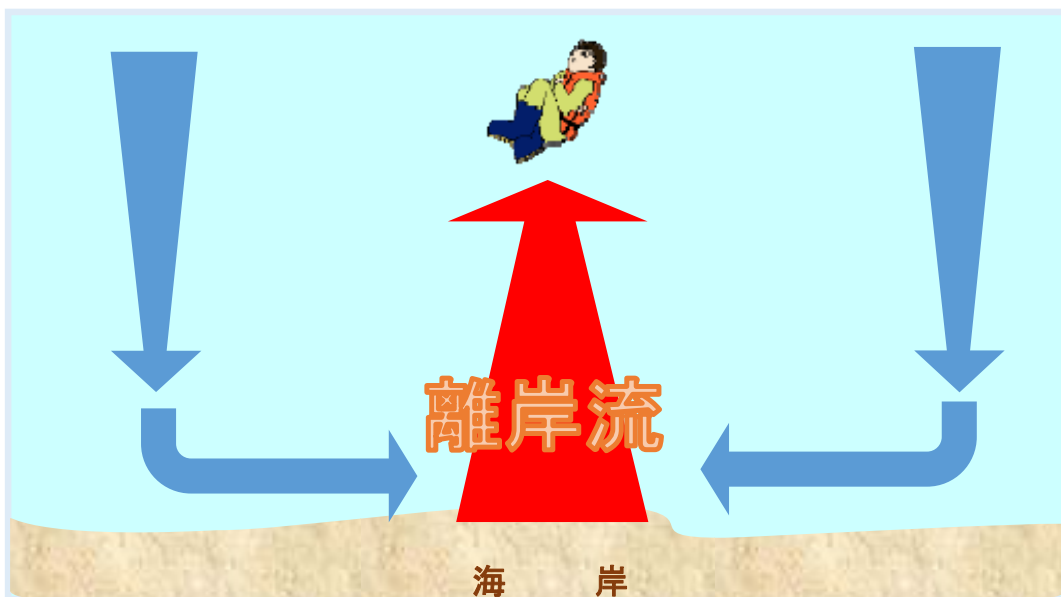
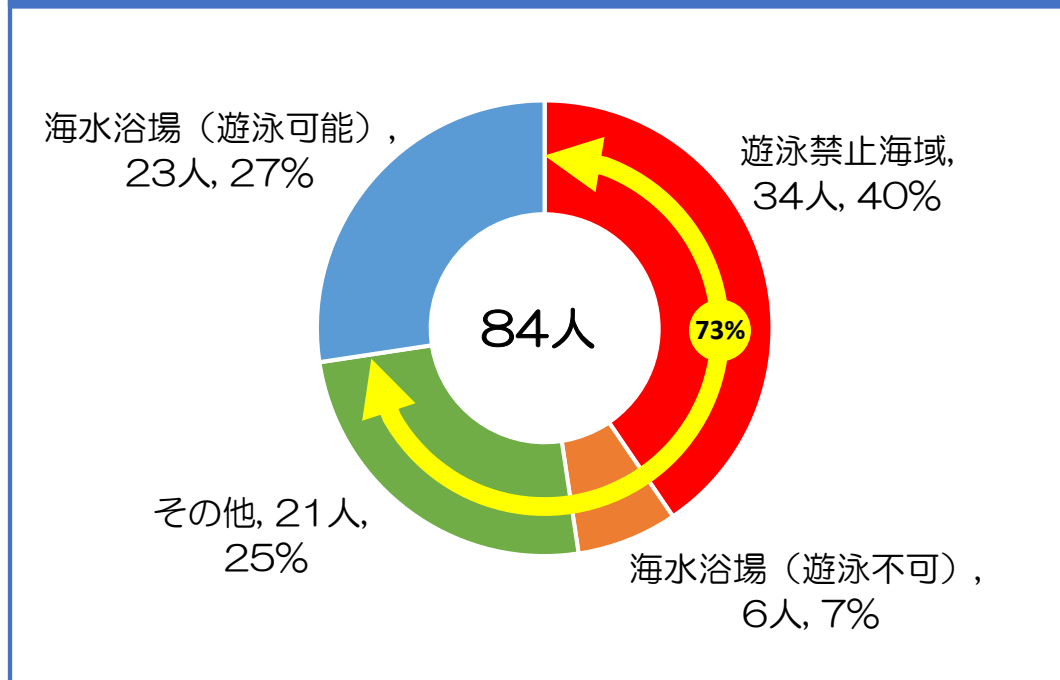


5. 離岸流による遊泳中事故発生状況 (H19-H28累計 14歳以下)

離岸流による遊泳中の帰還不能事故発生状況



離岸流による遊泳中の帰還不能事故 場所別発生状況



離岸流： 沖へ流れる、海水の強い流れ

遊泳禁止海域	地方公共団体等から遊泳禁止とされている海域
海水浴場 (遊泳不可)	シーズン中であって、夜間若しくは荒天等により遊泳禁止となっている海水浴場
その他	海水浴場又は遊泳禁止海域以外の海域・シーズン外の海水浴場
海水浴場 (遊泳可能)	シーズン中の海水浴場 (トイレ・シャワーの設備、監視員が常駐) 内の海域

他機関と連携した取組み



- 警察庁との連携により、海水浴場において警察官と海上保安官による合同パトロール等を実施

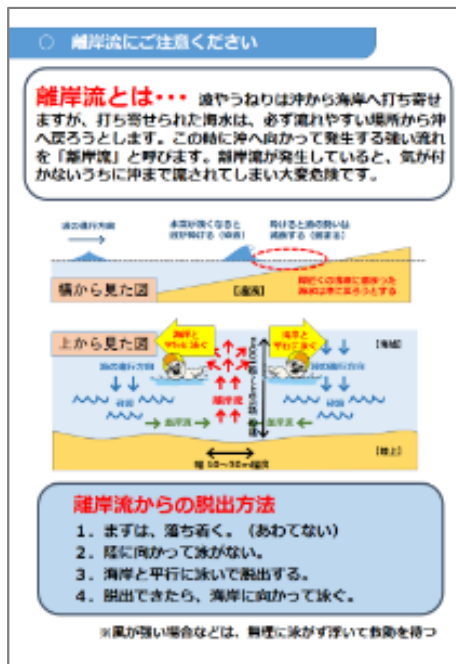
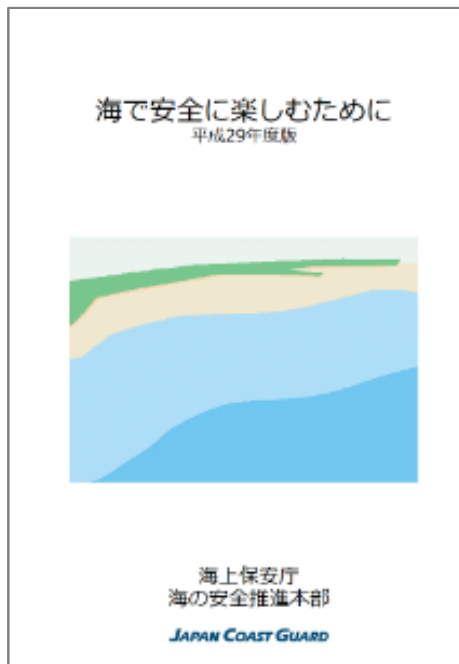


- 平成29年3月に、（NPO法人）日本ライフセービング協会と協定を結び、事故情報の共有を図るとともに、事故防止対策の連携強化を実施

- （NPO法人）PW安全協会及びシーバードジャパンとの連携により、水上オートバイを用いた海水浴場のパトロール等を実施
- 事故発生地点における注意看板の設置等について、海岸管理者への申し入れを実施



情報提供・啓発活動



- 海上保安庁ホームページにおいて、マリンスポーツを楽しむ方々に向けた冊子「海で安全に楽しむために」を掲載



- 海上保安庁ツイッターにより、遊泳中の事故や危険な海洋生物に対する注意情報をタイムリーな提供を実施

- 海上保安庁が提供する「海洋台帳」において、全国の海水浴場の位置、管理市町村ホームページへのリンクを掲載
- 政府広報（テレビ、ラジオ、インターネット広告）を用いた遊泳時の注意に関する周知啓発の実施



子供（14歳以下）の海浜事故の傾向分析

- 子供のマリンスポーツに伴う海浜事故の約6割が遊泳中
- 7～8月に、遊泳中の事故が急増
- 年齢の低下に伴い、「保護責任者の監視不十分」の割合が増加
- 子供の遊泳中事故の約6割が溺水
- 離岸流による遊泳中の帰還不能事故のうち、約7割が海水浴場以外の海域

子供の海浜事故防止のポイント

- 保護者は、子供から目を離さないようにしましょう！
- 監視員が常駐する海水浴場で泳ぎましょう！

離岸流に遭遇したら

1. 決して**流れに逆らって泳がない!**
2. **岸と平行**に泳ぐ!
(離岸流の幅は10~30m)
3. 離岸流から抜け出せたら、
岸に向かって泳ぐ!

漂流した場合の対処法

合言葉は…

「浮いて待て！」

大きく息を吸い、空気を肺にためる。
あごを上げて上を見ると呼吸しやすい。

手は水面より下。

靴ははいたまま。
軽い靴は浮き具代わりに。

手足は大の字に広げる。

